



# 北の森林 国有林



写真：オタトマリ沼からの利尻山

## 今月のトピック

・平成 28 年度 北の国・森林づくり技術交流発表会



国民の森林・国有林

林野庁北海道森林管理局

# 平成28年度 北の国・森林づくり技術交流発表会

北海道森林管理局では、平成29年2月2日及び3日の両日、森林・林業に係わる技術情報等の交換を図るため、北海道庁、市町村、高校等の発表を含めた「北の国・森林づくり技術交流発表会」を北海道大学「学術交流会館」で開催しました。

2日には、「森林保全部門」、「森林技術部門」、「森林ふれあい部門」についての25課題の一般発表があり、3日には、「森林技術部門」及び「森林ふれあい部門」についての14課題の一般発表及び、森林総合研究所北海道支所及び同林木育種センター北海道育種場、北海道立総合研究機構林業試験場から3課題の特別発表があり、その後、一般社団法人日本CLT協会 河合誠 氏の特別講演が行われました。

2日間で延べ約570名の来場者の中、発表では各地域で積み重ねてきた成果として、「再造林の低コスト化に向けて放つ4本の矢」①一貫作業②コンテナ苗③低密度植栽④天然更新と、「将来の森林づくりを担う人材育成への貢献」森林・林業教育支援プログラムの取組と、「最北の海岸防災林施業モデル」造成50年を経て更なる機能発揮への取組と検証となどの課題が発表され、会場からは各課題に対して多くの質問やアドバイスがありました。

また、北海道旭川農業高等学校、北海道帯広農業高等学校から大人顔負けの優れた発表があり、会場からは賞賛の声が聞こえていました。

(技術普及課)



開催にあたり挨拶する  
刈上 北海道森林管理局長

(写真：十勝西部森林管理署東大雪支署 発表の様子)



## 最優秀賞・優秀賞のみなさん

※各部門の受賞は、北海道森林管理局ホームページをご覧ください。



局長賞（最優秀賞）

森林保全部門

最北の海岸防災林施業モデル

宗谷森林管理署



局長賞（最優秀賞）

森林ふれあい部門

将来の森林づくりを担う人材育成への貢献

十勝西部森林管理署



局長賞（最優秀賞）

森林技術部門

再造林の低コスト化に向けて放つ4本の矢

上川南部森林管理署



局長賞（優秀賞）

森林保全部門

シマフクロウにやさしい森づくり

根釧西部森林管理署



局長賞（優秀賞）

森林ふれあい部門

地域貢献に向けた取組み

上川北部森林管理署



局長賞（優秀賞）

森林技術部門

優良広葉樹材の生産に向けた二次林の活用について

日高南部森林管理署

## 特別講演

### CLT 工法について ～状況と今後の展開～

一般社団法人日本CLT協会

専務理事 河合 誠 氏



表彰を受ける発表者



熱心に発表を聞き入る  
会場のみなさん



審査委員からも適切な  
アドバイスがありました

# 日高地域における林業の活性化 に向けた取り組み

地域課題の解決に向けた取組

日高北部森林管理署

当署は北海道の中央南西部に位置し、日高山脈の北西部の約10万haの国有林を管理経営しております。

管内を南西方向に流れる沙流川は、日高山脈の熊見山を源に、途中で幌尻岳を源とする糠平川等の支流と合流し、日高町門別地区で太平洋に注いでいます。この沙流川周辺に広がる国有林は、昨年夏の数度の台風等に見舞われ、林道等は甚大な被害を受け、森林施業等の円滑な実施に支障が生じました。



落橋した千呂露橋  
(日高町)

特に、昨年8月下旬の台風10号では国道274号線の橋が落ち、日高町千栄地区の住民が一時孤立状態になりましたが、国有林のホロナイ林道を利用して無事避難をすることができました。

## 列状間伐等の普及推進

当署管内の森林の7割が国有林で、間伐を中心に木材の安定供給等を行っています。一方、民有林は、比較的大規模な会社林が多いことから、他の日高地方と比較して搬出間伐は進んでいますが、列状間伐の実施状況は、日高地方の他地区と同様に1割に満たない状態です。

このような状況を改善するため、日高振興局森林室、同平取事務所や日高南部森林管理署と共同で森林組合への支援として意見交換を行い、「搬出

間伐の推進には、団地化による施業集約と作業効率の良い路網の配置等を森林所有者に採用してもらえよう、メリットや取組事例を普及することが必要不可欠」との結論となり、10月に新冠国有林で、搬出間伐等の検討会を実施しました。



搬出間伐の検討会  
(新冠町)

検討会では、搬出間伐のメリット等国有林の取組みの説明が十分にできなかったこともあり、今後

も引き続き地域の森林所有者が積極的に、搬出間伐等を導入していけるよう日高振興局森林室と連

携を密にして取り組むことが必要と感じました。

## バイオマスの安定供給

道央地域では昨年、バイオマス発電所が本格稼働を始めたほか今後、更に発電所が稼働することから、発電用チップのニーズが高まっています。

当署では、木質バイオマス資源の安定供給の取組として、昨年からは林地未利用材の情報発信と販売を行ってきました。

本年度は素材システム販売や初回間伐を中心とした伐採計画の見直しなど木質バイオマス資源の利用を視野に入れた間伐箇所への掘り起こしを行ったところです。

一方、これらの追加指定した箇所では8月の台風等により林道等が被災し、その復旧工事が必要となっており、引き続き対応を進め

ているところです。



バイオマス資源予定地  
(日高町)

## 民有林と国有林の効率的な路網整備は、間伐等の森林整備の推進には必要不可欠です。

このため、民有林・国有林の情報網を網羅した共通図面の作成を日高振興局森林室平取事務所と検討しております。

まず、手始めとして、現在民有林林道の把握のため町村職員を含めたGPS研修を企画しているところです。

今後共、地域林業の活性化の為に民有林と連携を進めて参る考えです。

# センター通信

森林技術・支援センター



今回は、森林技術・支援センターが取り組んでいる技術開発課題の中から、「北海道国有林におけるコンテナ苗の効果の検証」について紹介します。

## はじめに

コンテナ苗とは、苗木を育てる孔が多数あるトレイ（コンテナ）で育てた苗のことです。

小形軽量で、根が密に張り巡らされているため、植付け時に崩れにくく、導入に当たっては従来の裸苗と比較して、①成長が良い②活着が良い③植栽時期が拡大する④植栽効率が良い等の期待が持たれていました。



育苗中のコンテナ苗  
(長沼町の石田農園)

北海道では、平成21年度からコンテナ苗の育苗が始まり、現在では道内の全24の森林管理署で植栽され、総植栽本数は平

成27年度末までに約23万本に達しています。

当センターでは、局森林整備第一課と連携して、各署における調査データを集積し、造林・保育コストの低減等に向けたコンテナ苗の効果を検証しました。

## 調査概要

道内各署において、トドマツ・アカエゾマツ・カラマツ等のコンテナ苗と裸苗の植栽試験区を設けて、苗木の種類（苗木規格・コンテナ容器サイズ）や植栽時期の違いによる、苗木形状の変化・活着率・成長傾向等を調査分析しました。

## 調査結果

### ①初期成長

トドマツ・アカエゾマツの植栽後2年の樹高成長量を比較すると、裸苗よりコンテナ苗の樹高成長量が大きい試験区が多い傾向にあるものの、植栽時点（苗木規格）でコンテナ苗の樹高が小さく、その差を2年で埋めるまでには至っていませんでした。

### ②活着率（植栽後の生存率）

気象害（寒風害等）と野ネズミの食害を受けた

箇所では、裸苗の被害割合が大きく活着率が低下し、コンテナ苗は、気象害等を軽減できる可能性もありません。

植栽1年後の比較では、コンテナ苗の活着率が高くなりました。

### ③夏期植栽の可能性

裸苗の植栽は、春と秋が適期ですが、コンテナ苗の、春・夏・秋に植栽した箇所の活着率・樹高・根元径の調査では、特にトドマツ・アカエゾマツが、どの時期でも同程度の結果となりました。

### ④植栽効率

裸苗の植栽では、鍬（クワ）を使用しますが、コンテナ苗の植栽には、専用の植付け器具（スペード・ティップル・プランティングチューブ等）を使用します。

功程調査（千本の植付けに要する延べ人数）の結果、裸苗の植栽より、コンテナ苗の植栽の方が高効率となりました。

また、鍬による植栽の場合、個人の技術による差が現れますが、コンテナ苗の植栽では、専門の技術がなくても簡単かつ、高い効率が期待でき

## まとめ

今回の調査では、北海道におけるコンテナ苗の効果として、活着の良さ・夏期植栽可能・植栽効率の良さが明らかになりました。



コンテナ苗用の植付け器具各種

コンテナ苗は、現状では、価格が割高でまた、初期成長での優位性は確認されませんでした。しかし、活着の良さを生かした低密度植栽、夏期植栽、大型機械を使用する一貫作業（伐採・地拵・植付）の採用等、現地の状況に合わせた活用方法により、造林作業の軽労化、作業期間の平準化や、コストの低減にもつながることが期待されます。

# こんにちは森林官です

宗谷森林管理署 豊富森林事務所  
 首席森林官  
 (豊富・幌延担当区)  
 小林 正志



宗谷森林管理署豊富森林事務所は平成28年4月1日より宗谷管内豊富担当区(豊富町)に加えて幌延担当区(幌延町)の国有林を管轄することとなり、合計約23,000haを管理しています。豊富町は酪農の町ですが日本最北端の温泉郷である「豊富温泉」や利尻・礼文・サロベツ国立公園の一部でもある「稚咲内砂丘林」があります。



稚咲内砂丘林(豊富町)

幌延町も酪農の町で、高レベル放射性廃棄物処理の研究施設があり、国有林においても研究計画の化学分析に用いる砂泥・水・ガスの採取等が行われています。また、近年は両町にお

いても風力発電が盛んになってきており、国有林内外を問わずに風力発電施設が建設・稼働されています。



オトンルイ風力発電(幌延町)

## 森林環境保全整備事業

人工林を管理していく上で重要な作業のひとつに、植林した樹木に光を与えるために間引していく「間伐」があります。

森林官は直接木を伐るわけではありませんが、事業を請負った会社等に対し、監督者として現場を見回ったり、必要な指示をしたりしています。

伐採された木材は建築材や製紙原料・バイオマス発電に有効利用されて

いきます。



間伐実施現場(豊富町)

## サロベツ湿原の保全の取組

管内には国立公園でもある「サロベツ湿原」があることから、環境省・開発局等と連携して自然再生などの普及活動を実施しています。



自然再生の普及活動

## 稚咲内国有林 エゾシカ誘引捕獲事業

近年、管内でもエゾシカの個体数の増加により稚樹や樹皮を食べられる被害が増えていることから国有林内においてわなを仕掛けて捕獲しています。

草本類等のエサが少なくなる冬期間に、フェンス内に餌を置いて十分に寄ってきたところで、ゲートを閉じて捕獲します。

今後「国有林の窓口」としての役割を担い、地域に根ざした森林事務所を心がけていきます。



エゾシカ誘引捕獲事業(豊富町)

## 国有林の窓口業務

森林事務所では入林者への入林対応業務なども行っています。

今後「国有林の窓口」としての役割を担い、地域に根ざした森林事務所を心がけていきます。



# 各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## 民有林サポートチームによる支援

【網走南部森林管理署】

神の子池で有名なオホーツク管内の清里町から、町有林（カラマツ人工林）の除伐作業に関するアドバイスを求められ、当署の民有林サポートチームを代表して森林総合監理士でもある森林技術指導官と主任地域林政調整官が、1月31日、清里町の林務担当者とともに現地へ赴きました。

当署では、これまで国有林が培ってきた森林や林業の技術が地域に貢献できればと考え、森林施業やエゾシカ対策、森林とのふれあい活動など様々な分野の技術的助言を行うための「民有林支援のためのサポートメニュー」を用意し、地元市町村などからの森林・林業に係る相談を受け付けています。

当日は、現地を踏査して状況を把握した後、森林技術指導官より「除伐のタイミングとしては、育成目的の樹種が被圧されて衰退してしまう恐れがあったことから、すぐに実行することが適当である」また、「育成目的以外の樹種であっても、植生が少ない箇所等では積極的に残していくことも重要」さらに、「安全作業のため、十分な作業間隔を確保して作業する」などのアドバイスをを行いました。



除伐作業についてのアドバイス

今後、今回のような技術指導のほかに、各種会議等の場を活用し民有林関係者との意見交換を実施するとともに、地域から一層求められる森林管理署となるため、民有林サポートチームのさらなる研鑽を図っていきたいと考えています。

## 広葉樹材の説明会の開催

【十勝東部森林管理署】

1月6日、当管理署敷地内において、銘木市（めいぼくいち）に出品する前の広葉樹材（シウリザクラ、センノキ、カツラなど）を利用して、民有林関係者を対象に広葉樹材の説明会を開催しました。

これは、民有林関係者でも間近で有用広葉樹材等を見る機会があまりないことから説明会を企画したもので、十勝振興局森林室足寄事務所、足寄町役場、九州大学演習林から計7名の参加がありました。

当署では健全な森林整備、保安林等の適切な管理・保全等を推進するため、森林整備事業による保育間伐、誘導伐及び天然林受光伐の森林施業を行っており、その中で広葉樹も伐採することがあり、その一部は、旭川市で開催される銘木市に有用広葉樹材の一般材を中心に出品しています。

通常、銘木市に出品する材は、伐採現場から直接銘木市の開催地に運搬しますが、今回は早期に現場から運び出して署の敷地に一時的に保管し、運搬に係る除雪経費の節減を図っていたもので、銘木市の開催に合わせてまとめて発送します。

参加者からは、「人工林からこのような径級の広葉樹が伐採されるのか」、「シウリザクラが銘木になるとは思わなかった」との感想も聞かれ、最後に銘木市での高値を祈念しました。



銘木市に出品する丸太



広葉樹材の観察をする参加者

## 森林・林業見学会を開催

【上川中部森林管理署】

1月16日に、当署管内上川国有林や当麻町の製材工場や木育施設等において、「森林・林業見学会」を開催しました。

当署では、森林・林業について体験・学習する機会を提供や、木にふれ合い、木の良さを理解してもらう「木育」活動を推進していきます。

今回の見学会は、山で伐採された木がどのような行程で、どのように利用されているかを理解してもらうための木育活動として実施しました。

当日は、「森林の現状と課題」をテーマに、森林の見方や主伐再造林の必要性及びCLTの開発・普及等について説明を行いました。現地では、上川町の国有林で実施している、間伐作業箇所を見学しました。ハーベスタのコクピット

やハーベスタによる伐倒、

枝払い及び採材、グラップルとフォワーダによる集材作業などを見学した参加者は、林業機械の高性能化を目の当たりにして大変驚いた様子で、「枝払いが気持ちいい」という感想がありました。



グラップルとフォワーダ集材の作業を見学する参加者

その後、当麻町森林組合の製材工場にバスを移動し、加工販売課長から概要の説明をいただき、工場内を見学しました。

工場では、日本に1台しかないフランス製の製材機械や製材になるまでの工程を見学し、木を全て利用し

ていることに感心していました。



日本に1台のフランス製製材機械

当麻町の木育拠点施設では、「くぐるみなの木遊館」を見学しました。

ここでは、当麻町役場の建設水道課専門監から、平成28年3月に竣工したこの施設の建築までのお話や施設の説明をしていただきました。

参加者は、木をふんだんに使用した施設で遊びながら童心に返った様子でした。



施設の説明を受けている様子

北海道森林管理局は、広大で大変豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに答えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としております。

北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もり！スクエア」「イベント情報」等の各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。



## お知らせ

●平成28年度 地域管理経営計画等の計画(案)の公告・縦覧について

北海道森林管理局では、森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的事項を定める「地域管理経営計画」及び「国有林野施業実施計画」を策定するとともに、森林計画区の「地域管理経営計画」及び「国有林野施業実施計画」の変更を行うため、公告・縦覧をおこなっています。

※詳しくは、北海道森林管理局HPをご覧ください。

広報 「北の森林 国有林」2月号  
発行 林野庁北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70  
I P 電話 050-3160-6300  
電 話 011-622-5213  
F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>